

中 学 校

平成 2 6 年度

教育研究員研究報告書

国 語

東京都教育委員会

目 次

I	研究主題設定の理由	1
II	研究の視点	1
III	研究の仮説	2
IV	研究の方法	3
	1 研究構想図	3
	2 仮説の検証	3
V	研究の内容	6
	指導の実際	
	〈指導例 1 : 第 1 学年〉	6
	〈指導例 2 : 第 2 学年〉	1 2
	〈指導例 3 : 第 3 学年〉	1 8
VI	研究のまとめ	2 4

研究主題

自分の考えをより広げたり深めたりする 読み手を育てる指導の工夫

I 研究主題設定の理由

「平成26年度全国学力・学習状況調査」(国立教育政策研究所)の国語に関する調査(中学校第3学年対象)において、課題のある事項として「複数の資料を比較して読み、要旨を捉えること」(正答率31.7%)が挙げられている。また、「平成26年度児童・生徒の学力向上を図るための調査」(東京都教育委員会)の国語(中学校第2学年対象)においては、「文章の中心的内容について、情報を比較・関連付けて読み取ること」に関する問題の正答率が58.6%と他の問題に比べて低かった。

日々、教育現場で接している生徒の実態においても、「物事を一面的にしか見られない」「話し合いをしても、他者の考えを取り入れて考えを深めることができない」など、様々な視点からものを見たり考えたりすることで自分の考えを広げたり深めたりするというところに、課題が見られる。その根底には、目的に応じて複数の情報と知識や体験とを関連付けて思考・判断する力が十分に育成されていない現状があると考えられる。

これらの調査結果や生徒の実態の分析から、国語科の授業において生徒の思考力・判断力を育成する際に、目的に応じて文章から読み取った複数の情報と知識や体験とを比較・関連付けながら考えさせる指導を工夫する必要があると考える。文章を読み、目的に応じて取り出した複数の情報を様々な視点から吟味したり、自らの知識や体験と関連付けて考えたりしながら、自分のものの見方や考え方を広げたり深めたりする力は、他教科の学習においても必要な力である。さらに、実生活の上で課題に直面した際にも、課題解決のために様々な情報と知識や体験とを関連付けながら、最もふさわしい解決策を考えるための力となって発揮されるものである。このような思考力・判断力を高めるための学習指導を行うことは、国語科の使命であると考えられる。

これらのことを踏まえ、本研究では、研究主題を「自分の考えをより広げたり深めたりする読み手を育てる指導の工夫」とし、「読むこと」の指導事項の中で、特に「自分の考えの形成」の指導に焦点を当てて、研究を行うこととした。

II 研究の視点

「自分の考えをより広げたり深めたりする読み手」となるために必要な力を、生徒一人一人に身に付けさせるための効果的な指導の工夫を示すことが、本研究の目指すところである。

学習指導要領では、自分の考えの形成を目指す「読むこと」の指導事項として、「オ 文章に表れているものの見方や考え方をとらえ、自分のものの見方や考え方を広くすること」(第1学年)、「エ 文章に表れているものの見方や考え方について、知識や体験と関連付けて自

分の考えをもつこと」(第2学年)、「エ 文章を読んで人間、社会、自然などについて考え、自分の意見をもつこと」(第3学年)という項目が示されている。これらの事項を指導していく際には、書き手の考え方に共感すること、疑問をもつこと、批判することなどを通して、読み取った情報を自分の問題として捉えさせることが必要である。このような学習活動を通して、生徒は新たなものの見方や考え方を発見し、様々な視点から物事について考えられるようになる。考え、本研究の検証では、説明的な文章を教材文とした授業を行うこととした。説明的な文章は文章の構成や論理の展開が明確であり、書き手のものの見方や考え方を生徒が捉え、自分の考えに照らし合わせる学習に適していると考えたからである。

III 研究の仮説

本研究では、「読むこと」の指導において、「自分の考えをより広げたり深めたりする読み手」を育てるための手だてを明らかにすることをねらいとしている。

自分の考えをより広げたり深めたりする読み手を育てるためには、文章を読み取らせる際に、目的に応じて必要な情報を読み取らせるとともに、読み取った情報を様々な視点から比較・関連付けて考えさせることが重要である。なぜなら、書かれている情報を目的に応じて吟味していく過程の中で、書き手のものの見方や考え方を自分と対比したり置き換えたりすることにより、読み手は自分の考えを広げたり深めたりするようになるからである。

そこで、文章を読ませる際に解決すべき課題を提示し、その課題の解決のために文章から必要な情報を読み取らせ、それらを比較・関連付ける学習活動を設定することとした。その際には、読み取った複数の情報と自らの知識や体験とを関連付けて、賛否を明らかにしたり、問題点を指摘したりすることができるような課題を設定するよう工夫する。この学習活動によって、文章から複数の情報を取捨選択して吟味したり、自らの知識や体験と比較・関連付けたりするなど、様々な視点から考えるようになるはずである。その結果、生徒は自分の考えをより広げたり深めたりすることができるようになるであろう。

また、自分の考えをより広げたり深めたりする読み手を育てるためには、生徒に考えをもたせて学習を終えるのではなく、それぞれの生徒の考えを交流させることが重要である。なぜなら、互いに考えを交流することにより、他者の考えから様々なものの見方を知るとともに、その根拠を知ることができるからである。また、それらを比較・関連付けることで、自分の考えを捉え直し、より広げたり深めたりすることが可能となるはずである。生徒の発達段階を考えると、一人一人の知識や経験には様々なものがあり、一人だけで自分の考えを十分に広げたり深めたりできるとは限らない。そのため、様々な視点から考えることができず、思考が偏ってしまう可能性も考えられる。また、読み取ったことやそれに基づく考えを説明させても、内容が深まっていけない傾向も見られる。読むことの学習過程に生徒相互の考えを交流する学習活動を取り入れることにより、生徒が他者の納得を得るため、より多くの根拠を文章や自らの知識、体験などに求め、それらを比較・関連付けながら整合性の取れた考えを構築しようとする状況を作ることでもできると考えた。このような他者との交流を位置付けた学習活動を通して、生徒は自分の考えをより広げたり深めたりするようになるであろう。

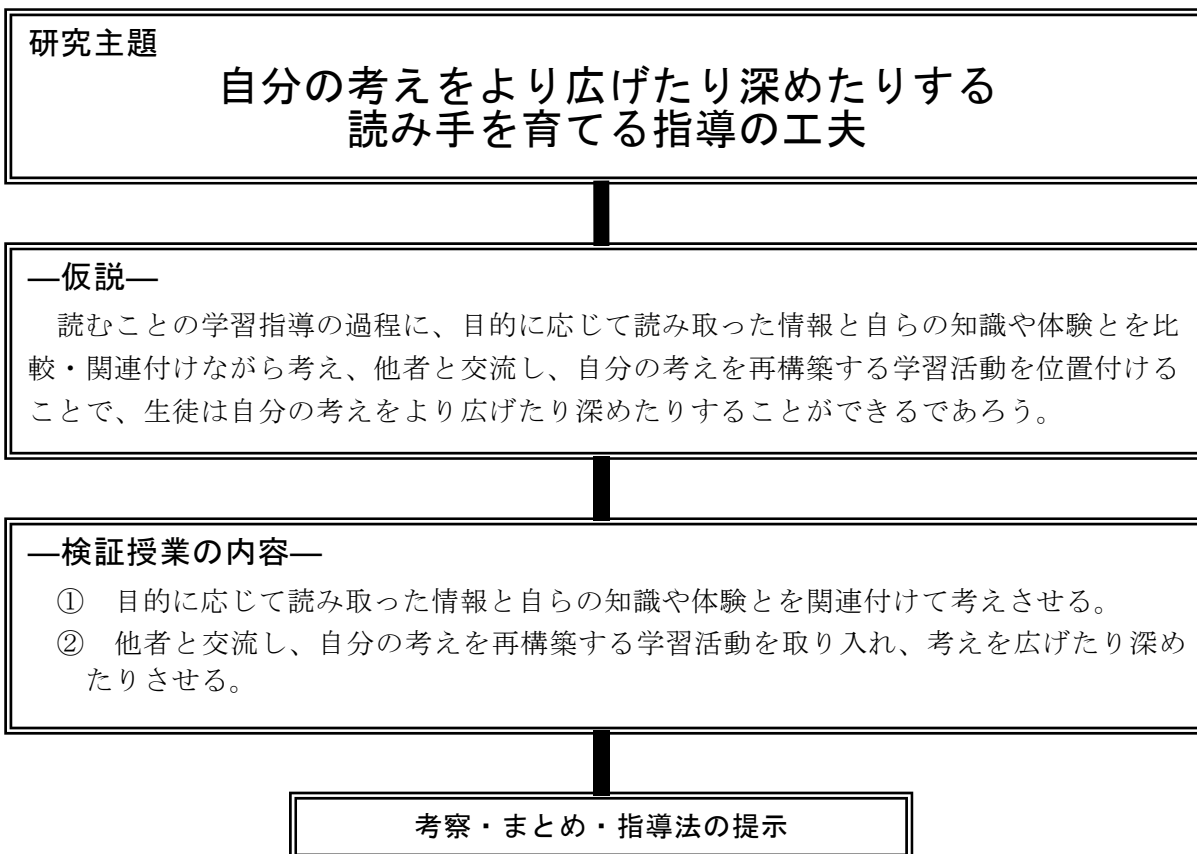
以上のことから、本研究では、「読むこと」の指導において、目的に応じて文章から必要な情報を読み取らせ、それらを自らの知識や体験と比較・関連付けて考えさせることと、他者との交流活動を取り入れることで、自分の考えをより広げたり深めたりする読み手を育てることができるのではないかと考える。そこで、次のような研究の仮説を設定し、検証授業を行っていくこととする。

—仮説—

読むことの学習指導の過程に、目的に応じて読み取った情報と自らの知識や体験とを比較・関連付けながら考え、他者と交流し、自分の考えを再構築する学習活動を位置付けることで、生徒は自分の考えをより広げたり深めたりすることができるであろう。

IV 研究の方法

1 研究構想図



2 仮説の検証

本研究では、「自分の考えをより広げたり深めたりする読み手を育てる」ために、単元の学習において、目的に応じて読み取った情報と自らの知識や体験とを比較・関連付けて考えることができるように指導する方法、及び、互いの考えを交流することにより、一人で考えたときには気付かなかった多様なものの見方や考え方によって、自分の考えを再構築できるよ

うに指導する方法を工夫する。このことにより、目的に応じて文章の中の複数の情報と自らの知識や体験とを比較・関連付ながら、多様な視点から自分の考えを主体的に形成する力の向上を図る。

このような研究の仮説に基づいた単元を学年ごとに設定し、授業を行った後、生徒の記述内容等から成果と課題を分析・考察することによって仮説を検証する。

● 検証の方法

第1学年

- (1) 説明文「シカの『落ち穂拾い』—フィールドノートの記録から」を教材文として「教材文の叙述と複数の図表との整合性を検討することで、筆者のものの見方や考え方について様々な視点から考える」活動に取り組みさせる。
- (2) 読み取ったことを基に、筆者の考えを支持する立場と支持しない立場に分かれて交流する学習活動を行わせる。
- (3) 交流を踏まえて、自分の考えの変化や広がり振り返らせ、記述させる。

第2学年

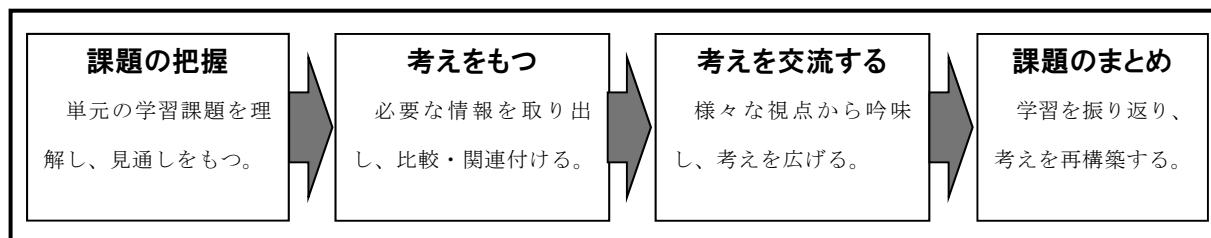
- (1) 論説文「君は『最後の晩餐』を知っているか」を教材文として「絵画に対する筆者の見方や考え方と自分の見方や考え方との共通点や相違点について、教材文の表現と自らの知識や体験とを比較・関連付けながら考える」活動に取り組みさせる。
- (2) 読み取ったことを基に、絵画に対する筆者の見方や考え方と自分たちの見方や考え方との共通点や相違点についてグループで交流して整理する学習活動を行わせる。
- (3) 交流を踏まえて、筆者への手紙を書かせる。

第3学年

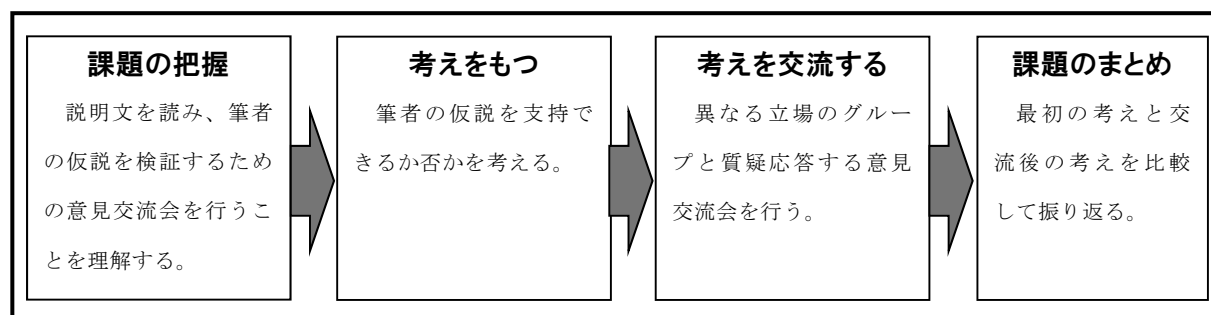
- (1) 二つの異なる新聞の社説を教材文として「書かれている情報と自らの知識や体験とを関連付けて捉えることで、自分の立場や根拠を明確にした考えをもつ」活動に取り組みさせる。
- (2) 読み取ったことを基に、異なる立場や根拠の者と互いに意見を交流する学習活動を行わせる。
- (3) 交流を踏まえて、社説に対する意見文を書かせる。

自分の考えをより広げたり深めたりする 読み手を育てる学習指導の過程

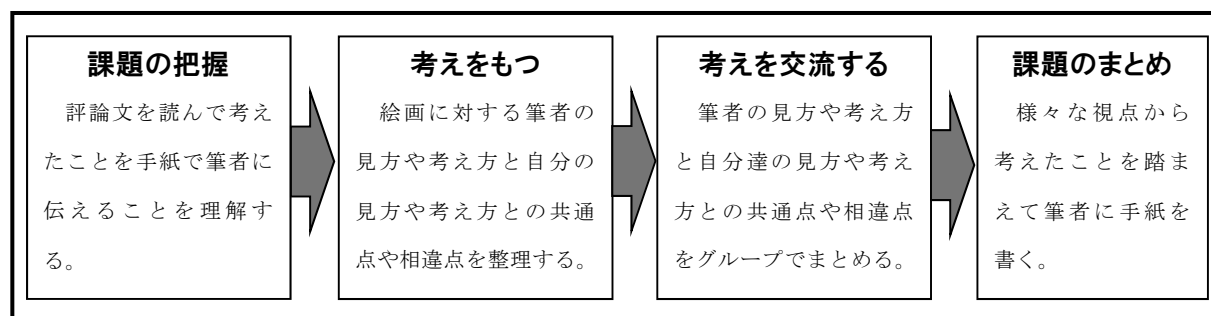
《本研究で提案する学習指導過程》



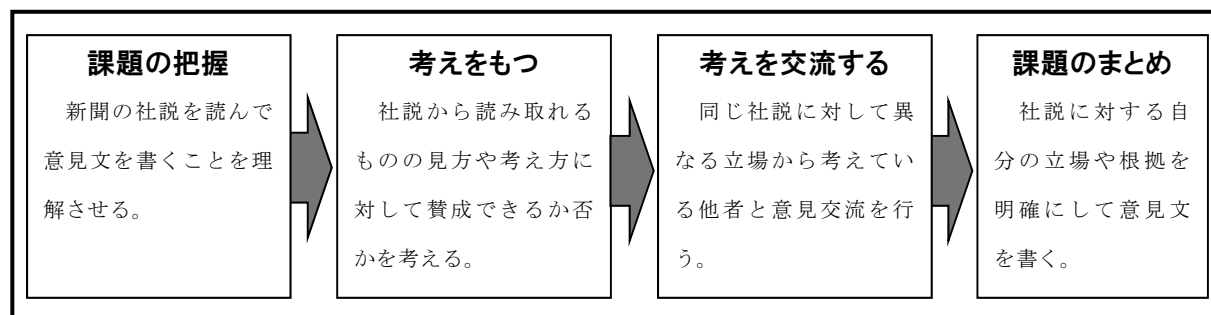
●第1学年 単元名「説明文の筆者の仮説を検証する意見交流会を行おう」



●第2学年 単元名「評論文を読んで考えたことを手紙で筆者に伝えよう」



●第3学年 単元名「新聞の社説を読んで意見文を書こう」



V 研究の内容

指導の実際

<指導例 1：第 1 学年>

説明文の叙述や図表を基に、筆者の考えについて様々な視点から考えることにより、自分の考えを広げ、深めることの指導例

1 単元名

説明文の筆者の仮説を検証する意見交流会を行おう
～筆者の考え方についてさまざまな視点から考える～

2 単元の目標

図表と教材文の叙述を根拠として筆者の考察の妥当性について考えを交流し、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。

3 評価規準

【国語への関心・意欲・態度】

- ・筆者の考えを図表と教材文から読み取り、読み取った情報と自らの知識や体験とを比較・関連付けて考えようとしている。

【読む能力】

- ・筆者の考えについて疑問をもったり、批判したりすることで自分の考えを広げたり深めたりしている。（C 読むこと (1) オ）

【言語についての知識・理解・技能】

- ・語句の意味を文脈に沿って的確に捉えている。
（〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕 (1) イ (イ)）

4 教材

- ・ 「シカの『落ち穂拾い』—フィールドノートの記録から」辻 大和
(光村図書 第 1 学年)
- ・ ワークシート

5 主な学習活動

(1) 単元の展開 (全 5 時間)

	学習活動	指導上の留意点
第 1 時	○ 単元の課題を把握し、教材文と図表から読み取った筆者の考えに対する賛否について自分の立場を決め、その理由を考える。	○ 筆者の考えとその根拠となる部分を図表から読み取らせる。 ○ 現時点での考えを書かせる。
第 2 時	○ 筆者の考えと図表から読み取ったことを整理して、自分の考えをもつ。	○ 教材文の叙述と図表とを比較・関連付けて読み、疑問点などをメモさせる。
第 3 時	○ 意見交流会で質問する内容などについて、各グループで話し合ってみる。	○ グループで話し合い、筆者の考えと図表との関連性についての質問や予想できる答えを考えさせる。

第4時	○ 意見交流会で、筆者の意見に対し支持派と不支持派に分かれて、質疑応答を行う。	○ 質問と答えは、教材文の叙述や図表に根拠を求められるものとする。 ○ 質疑応答により意見を交流し、考えを広げたり深めたりさせる。
第5時	○ 意見交流会を行ったことによって、様々な視点から筆者のものの見方や考え方について考えることができたかを振り返る。	○ 自分と異なる立場からの意見を踏まえて、自分の考えを再構築させる。

(2) 指導の展開例

第1時

① 本時の目標

本文を読み、筆者の仮説について自分の意見をもつ。

② 本時の学習

学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
<ul style="list-style-type: none"> ○ 説明的な文章を読む際に気を付けるべきことについて考える。 ○ 筆者の考えを検証するための意見交流会を行うことを理解し、学習の見通しをもつ。 ○ 教材文と図表とを関連付けて読み、内容をつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p style="text-align: center;">考えをもつ</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○ 筆者の仮説について自分は賛否のどちらの立場であるかを考える。 ○ 理由をワークシートに記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習事項や体験を想起させながら、筆者の考えや根拠の妥当性を検証することの重要性を押さえる。 ・筆者の考えを検証するという課題を説明し、学習の見通しをもたせる。 ・教材文の内容と図表との関係を関連付けながら読ませる。 ・教材文の叙述を押さえるとともに、他に図表から読み取れることはないかを考えながら読ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教材文の叙述や図表を根拠とする自分の考えをもっている。 [ワークシート]

第2時

① 本時の目標

教材文の叙述や図表から読み取れることを整理して自分の考えをもつ。

② 本時の学習

学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
<p>○ 本時のねらいを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>考えをもつ</p> </div> <p>○ 意見交流会で、根拠に基づいて自分の考えを発言できるように、筆者の考えを図表や本文から詳しく読み取り、疑問点や共感する点などを整理する。</p> <p>○ グループを作り、筆者の考えを支持するか支持しないか、二つの立場に立たせる。</p>	<p>・筆者の考えを正確に捉えた上で自分の考えをもち、様々な視点から検証することを確認する。</p> <p>・教材文の叙述や図表から読み取れることを整理させる。</p> <p>・1グループ4～5人にする。このグループで意見交流会を行うことを伝える。</p>	<p>○ 筆者の考えに対し、根拠を基に自分の考えをまとめている。</p> <p style="text-align: right;">〔ワークシート〕</p>

第3時

① 本時の目標

意見交流会に向けて、異なる立場へ質問する内容などについて話し合うことで、教材文の叙述と図表との関連について様々な視点から考える。

② 本時の学習

学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
<p>○ 本時のねらいを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>考えをもつ</p> </div> <p>○ 自分と異なる立場のグループに対する質問や想定される質問とその答えを、各自で付箋にメモする。</p>	<p>・次時の意見交流会に向けて、相手に分かりやすい質問を考えること、質問されそうな内容を想定すること、想定される質問の答えを考えることを確認する。</p> <p>・教材文の叙述と図表との関連に着目させる。</p> <p>・自らの知識や体験とも比較・関連付けて考えられるよう助言する。</p>	

<p>○ 意見交流会に向けて各グループで付箋にメモした考えを整理・分類しながら、教材文の叙述と図表との関連について検討する。</p>	<p>・グループごとに各自の考えをメモした付箋を使って話し合い、交流の際の質問や答えについて検討する。</p> <p>・話し合いが進まないグループには交流相手となるグループの話し合いの様子を伝え、考えを促す。</p>	<p>○ 質問や想定される質問に対する答えを考えることを通して、教材文の叙述と図表の関連について様々な視点から考える。</p> <p style="text-align: right;">[観察] [ワークシート]</p>
--	--	---

第4時

① 本時の目標

グループでまとめた質問を発表し、意見を交流することを通して、筆者のものの見方や考え方について様々な視点から考える。

② 本時の学習

学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
<p>○ 本時のねらいを確認する。</p> <p>○ 意見交流会のやり方を確認する。意見交流は全部で3回行う。各回10分で行う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p style="text-align: center;">考えを交流する</p> </div> <p>○ 質問用紙に沿って意見交流会1回目を行い、筆者の意見に対して支持派と不支持派に分かれ、質疑応答を行う。時間が来たら、支持派が移動し意見交流会2回目を行う。</p> <p>○ 意見交流会3回目を行う。3回目は各グループから選抜されたメンバーによる意見交流をクラス全体の前で行う。</p> <p>○ 本日の意見交流会について振り返りながら、メモの整理を行う。</p>	<p>・意見交流会を通して、筆者の考えている仮説について検証することを確認する。</p> <p>・意見交流会の後には、振り返りをすることを伝え、その際に役立つようなメモを取ることを確認する。</p> <p>・時間配分に気を付けさせる。</p> <p>・質疑応答を行いながら気付いたことや考えたこと、思ったことをメモさせる。</p> <p>・質問が不十分である、不足している、もっと聞きたいと思った場合は、選抜メンバー以外であっても質問をしてよいことにし、積極的な質問を促す。</p> <p>・次時に単元全体を振り返り、自分の考えの変化をまとめられるように、メモを整理させる。</p>	<p>○ 筆者のものの見方や考え方について様々な視点から質問したり答えたりしながら、自分のものの見方や考え方を広げたり深めたりしようとしている。</p> <p style="text-align: right;">[観察] [ワークシート]</p>

第5時

① 本時の目標

交流によって広がったり深まったりした考えをまとめる。

② 本時の学習

学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
<ul style="list-style-type: none"> ○ 本時のねらいを確認する。 ○ 改めて教材文を通読する。 ○ 意見交流会後の振り返りをする。 ○ 第1時で記入したワークシートと比較し、自分の考えの深まりや広がりを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元のまとめとして、これまでの学習を振り返り、自分の考えを広げたり深めたりすることを確認する。 ・これまでの学習を振り返りながら、丁寧に読み直させる。 ・メモを見直して、筆者のものの見方や考え方について、一人一人がどのような考えをもったのか、グループで確認する。 ・第1時で記入したワークシートを返却し、意見交流会の前と後の自分の考えが広まったり深まったりしたか、どういう意見や根拠からそのように考えたのかを記入させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 第1時と比較して自分の考えの広がりや深まりについてまとめている。 [ワークシート]

説明文の筆者の仮説を検証する意見交流会を行おう

一年 ● 組 ● 番 氏 名 ● ● ● ● ● ●

筆者の考察「仮説は支持されたといえるだろう」についてあなたはどのように考えますか。

1 あてはまるものに○を付ける。

意見交流会前 (いえる・いえない・どちらともいえない)

意見交流会後 (いえる・いえない・どちらともいえない)

2 自分の考えを振り返ろう

① 意見交流会によって自分の考えは(変わった・変わらない)

② その理由を書こう。

③ 今回の学習で分かったことなどを書こう。

意見交流会の前は、筆者が立てた仮説は支持されたと思った。でも、意見交流会で不支持派の人の意見を聞いて、仮説の根拠となっている図をよく見ると、測定が行われていない月のデータがあることが分かった。測定が行われていない月のデータが、もし仮説とは違うものだったらどうなるのかという疑問を今の私はもっている。だから、この仮説は支持されたとはいえないと思うようになった。

意見交流会でいろいろな人の考えを聞く中で、自分の考えが変わったり、考え方が広がったりするのだと気付くことができた。また、文章をよく読むことで新しい疑問が生まれてくることが分かった。

【検証授業の成果と課題】

第1学年では、複数の図表と教材文の叙述とを比較・関連付けて考えたことを、交流によって広げたり深めたりさせた。

本検証授業で明らかとなった成果は、生徒作品例に「自分の考えは変わった。」と書いてあるように、自分一人では気が付かなかった視点から教材文の内容について考えるようになった点である。これは第4時における意見交流会で別の立場のグループと質疑応答をすることによって、それまでとは違う考え方に気が付き、教材文を読み直したためだといえる。生徒作品例に、「測定が行われていない月のデータが、もし仮説とは違うものだったらどうなるのかという疑問を今の私はもっている。だから、この仮説は支持されたとはいえないと思うようになった。」と書いてあるように、この生徒は、筆者の仮説と図とを比較・関連付けながら思考を深め、図3と教材文の叙述だけでは仮説が成り立たない可能性があることを指摘している。この生徒は、最初に教材文を読んだ際には、筆者の仮説が成り立たない可能性については全く考えていなかったのだが、意見交流会で違う立場の生徒に指摘されることで、考えを深めていったのである。

その一方で、課題も明らかとなった。生徒作品例に「よく文章を読むことで新しい疑問が生まれてくることが分かった。」と書いてあるように、この生徒は意見交流会によって、自分の考えに疑問をもち、考えを変えている。しかし、その疑問を解決しようとしたり、その疑問の妥当性を吟味したりするまでには至っていない。自分の考えが変わったところで終わってしまっているのである。図3には測定が行われていない月があるのに、なぜ筆者はこの仮説が「支持されたといえるだろう。」と書いたのか。さらに新たな問いを設定し、他教科の既習事項や自らの体験を幅広く活用しながら考えを深められるように指導していくことが今後の課題である。

<指導例2：第2学年>

論説文を読んで、筆者のものの見方や考え方と自らの知識や体験とを比較・関連付けながら考えることで、自分の考えを広げ、深めることの指導例

1 単元名

評論文を読んで考えたことを手紙で筆者に伝えよう

～自らの知識や体験と比較・関連付けて考えを深めながら読む～

2 単元の目標

教材文から読み取れる「最後の晩餐」に対する筆者の見方や考え方と自らの知識や体験とを比較・関連付けて、考えたことを交流によって広げたり深めたりすることができる。

3 評価規準

【国語への関心・意欲・態度】

- ・「最後の晩餐」を鑑賞し、評論文を読んで自分のものの見方や考え方を深めようとしている。

【読む能力】

- ・「最後の晩餐」に表れている筆者のものの見方や考え方について、自らの知識や体験と比較・関連付けて考えたことを交流によって広げたり深めたりしている。

(C 読むこと(1)エ)

【言語についての知識・理解・技能】

- ・抽象的な概念を表わす語句の内容に注意して読み、自分の考えをまとめることに役立っている。(〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(1)イ(イ)])

4 教材

- ・「君は『最後の晩餐』を知っているか」布施英利（光村図書 第2学年）
- ・「中学校美術指導書 掛図3-1『最後の晩餐』」（光村図書）
- ・ワークシート

5 主な学習活動

(1) 単元の展開（全6時間）

	学習活動	指導上の留意点
第1時	○ 単元の課題を把握し、自分が選んだ絵画の魅力を一言で表した後、「最後の晩餐」を鑑賞する。	○ 絵画の鑑賞の観点をもたせて「最後の晩餐」を鑑賞させ、自分が受けた印象や根拠を明確にさせる。
第2時	○ 教材文を通読し、筆者の考えとその根拠を捉える。	○ 筆者が受けた絵画の印象とその根拠をまとめさせる。
第3時	○ 筆者に手紙を書く際に必要となる、筆者と自分との考え方の共通点や相違点、疑問点について考えながら、教材文を読む。	○ 教材文を丁寧に読み返ししながら、共通点、相違点、疑問点を三種類のカードにメモさせる。

第4時	○ 筆者の考えと自分の考えとの共通点や相違点について、グループで交流し、筆者の価値観と自分たちの価値観についてまとめる。	○ 前時に記入したカードを模造紙に貼り付けながら、まとめさせる。 ○ 最後に各グループでまとめた考えを交流させる。
第5時	○ 筆者の考えと自分の考えとを整理し、実際に「筆者への手紙」を書く。	○ 教材文を的確に読み取れているかどうか再確認しながら、下書きメモを作らせ、筆者への手紙を書かせる。
第6時	○ 互いの手紙を交換し、筆者の立場に立って返事を書き、自分の考えがどのように深まったのかを振り返る。	○ 本文の叙述に基づいて、筆者はどのような考えで教材文を書いたのかを考えさせる。 ○ ワークシートに沿って、自分の考えを振り返らせる。

(2) 指導の展開例

第1時

① 本時の目標

自分の絵画鑑賞の観点を振り返り、「最後の晚餐」から受ける印象について観点を明確にして自分の考えをもつ。

② 本時の学習

学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
○ 評論文を読む際に気を付けるべきことについて考える。 ○ 単元の課題を把握する。 ○ 自分が魅力を感じる美術作品を選ぶ。 ○ 鑑賞の観点を知り、自分はどの観点を重視しているのかを考え、魅力を一言で表す。 ○ 「最後の晚餐」を鑑賞する。	<ul style="list-style-type: none"> 既習事項や体験を想起させながら、筆者の考えについて吟味し、自分のものの見方や考え方を豊かにしていくことの重要性を押さえる。 絵画についての評論文を読み、筆者に手紙を書くという課題を説明し、学習の見通しをもたせる。 直感的に選ばせる。 美術の学習等、既習の知識や学習体験を基に、「テーマ」「色」「構図」「物語性」などの観点のうち、どの観점에서自分が絵画を鑑賞しているのかを確認させる。 「最後の晚餐」から受ける印象を一言で表し、観点を明確にして、感じたことをメモさせる。 	○ 「最後の晚餐」を鑑賞して感じたことについて、観点を明確にして書こうとしている。 〔観察〕〔ワークシート〕

第2時

① 本時の目標

「最後の晩餐」に対する筆者の見方や考え方を捉える。

② 本時の学習

学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
○ 本時のねらいを確認する。 ○ 教材文を通読する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 考えをもつ </div> ○ 筆者の考えとその根拠を読み取り、整理してまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・手紙を書くために筆者の考えと根拠を読み取ることを確認する。 ・一人、ペア、グループなど、生徒の実態に合わせて音読させ、語句の読み方などを確認させる。 ・筆者の考えとその根拠を、簡単な図表を用いて各自でまとめさせる。 ・抽象的な概念を表す語句などは、辞書類を活用して理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 筆者の考えとその根拠の関係を簡単な図表で表している。 [ワークシート] ○ 抽象的な概念を表わす語句の内容について注意して読んでいる。 [ワークシート]

第3時

① 本時の目標

「最後の晩餐」に対する筆者の見方や考え方と自分の見方や考え方との共通点や相違点について、自らの知識や体験と比較・関連付けながら考える。

② 本時の学習

学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
○ 本時のねらいを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 考えをもつ </div> ○ 筆者の考え方と自分の考え方の共通点、相違点、疑問点をメモする。	<ul style="list-style-type: none"> ・筆者に手紙を書く際に必要となる、筆者と自分との考え方の共通点や相違点、疑問点について考えることを確認する。 ・教材文を読み直し、青色カード（共通点）、赤色カード（相違点）、黄色カード（疑問点）に筆者の考えと自分の考えとを比較・関連付けながらメモさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 筆者の考え方と自らの知識や体験とを比較・関連付けながら、共通点や相違点、疑問点をメモしている。 [ワークシート]

第4時

① 本時の目標

「最後の晩餐」に対する筆者の考え方と自分の考え方との共通点や相違点についてグループで交流し、様々な視点から考える。

② 本時の学習

学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
<p>○ 本時のねらいを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>考えを交流する</p> </div> <p>○ 筆者の考え方と自分の考え方との共通点や相違点についてグループで交流し、筆者の考え方と自分の考え方についてまとめる。</p> <p>○ 模造紙にまとめた内容を基に、考え方の共通点と相違点を表にまとめて代表の生徒が発表する。</p>	<p>・手紙で筆者に伝える内容の根拠を明確にするために交流活動を行うことを確認する。</p> <p>・前時にメモしたカードの内容を確認させ、同じような考えのカードを近くに並べて模造紙にまとめさせる。</p> <p>・要点をまとめた画用紙を使って、各グループの代表者に発表させ、各グループの考えを交流させる。</p>	<p>○ 交流や発表を通して筆者の考え方と自分の考え方との共通点や相違点について様々な視点から考えている。</p> <p style="text-align: right;">〔ワークシート〕</p>

第5時

① 本時の目標

筆者の考えと自分の考えとを比較・関連付けながら「筆者への手紙」を書く。

② 本時の学習

学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
<p>○ 本時のねらいを確認する。</p> <p>○ 筆者に手紙を書く前には、特に何に気を付けたら良いかを確認する。</p> <p>○ 「筆者への手紙」を書くために下書きメモを用いて筆者の考えと自分の考えを整理する。</p>	<p>・前時に交流した学習を踏まえて「筆者への手紙」を書くことを確認する。</p> <p>・筆者の書いた文章を読み違えていないか再度確認しながら、下書きメモを作ることが必要だと理解させる。</p> <p>・教材文を読み返し、自分が筆者に伝えたいことを整理しながらメモさせる。</p>	

<p>○ 「筆者への手紙」を書く。</p>	<p>・自分の考えを深めさせるため、以下の点に注意して手紙を書かせる。</p> <p>① 第1時で絵画を鑑賞した体験や美術の授業で学習した知識等を基に、筆者の鑑賞の仕方と自分の鑑賞の仕方とを比較・関連付けて書く。</p> <p>② 筆者の考えや根拠と、自分の考えや根拠とを比較・関連付けて書く。また、筆者の絵画鑑賞の視点や観点に学んだ点について書く。</p>	<p>○ 筆者の考えや根拠に対する自分の考えをもっている。</p> <p>○ 筆者の絵画鑑賞の視点や観点と、第1時や美術の授業で学習した絵画鑑賞に関する知識や体験とを比較・関連付けながら書いている。</p> <p>[ワークシート]</p>
-----------------------	---	---

第6時

① 本時の目標

互いの「筆者への手紙」を読み合い、筆者の立場に立って返事を書くことで、筆者と自分とのものの見方や考え方を比較・関連付けながら自分の考えを広げ、深める。

② 本時の学習

学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
<p>○ 本時のねらいを確認する。</p> <p>○ 他者が書いた「筆者への手紙」を読み、筆者の立場に立って返事を書く。</p> <p>○ 代表作品を聞く。</p> <p>○ まとめを記入し、自分の考えがどのように深まったのかを振り返る。</p>	<p>・前時に書いた「筆者への手紙」を互いに読み合い、筆者の立場に立って返事を書くことを確認する。</p> <p>・本文の叙述に基づいて筆者がどのような考えで教材文を書いたのかを考えさせる。</p> <p>・考えが深まっている作品をいくつか選び、読み聞かせる。</p>	<p>○ 筆者のものの見方や考え方を踏まえ、教材文の表現を根拠として返事を書いている。</p> <p>[ワークシート]</p> <p>○ 単元を通して読み取った筆者のものの見方や考え方と自らの知識や体験とを比較・関連付けることで、自分のものの見方や考え方を広げたり深めたりしようとしている。</p> <p>[ワークシート]</p>

評論文を読んで考えたことを手紙で筆者に伝えよう

二年 組 番 氏名

筆者の布施英利さんへ手紙を書こう

布施さんの書いた「君は最後の晩餐を知っているか」と読んで、最初、私はびっくりしてしまいました。私はこの絵は「悲しい・暗い絵」だと考えていたのに、布施さんは「かっこいい」と書いていたからです。

でも、よく考えてみると、私と布施さんとは、絵の見方が違っていたのです。私は、色や人物の表情に着目して絵の物語を想像したのですが、布施さんはレオナルドが絵を描くときに使った科学や意図に着目していたのです。私は、「こんな絵の見方があるのか」と驚きました。なぜなら、絵そのものを見ているのではないからです。でも、確かに最新の科学を駆使するのは、かっこいいことです。私も最新の科学を駆使したプロジェクションマッピングを見たときは、かっこいいと思いました。当時の人もそんな気持ちになったのかなと思うと、この絵の新しい一面が見えてきて、絵って面白いんだなと思いました。

絵を見るときには、色や表情だけでなく、布施さんのように、絵の技法や画家の意図についても考えてみたいと思います。そうすると、いろいろな絵の見方ができて、面白くなると思うからです。この文章を読んで、今までとは違った絵の見方ができるよくなりました。ありがとうございます。

【検証授業の成果と課題】

第2学年では、評論文を読んで、筆者のものの見方や考え方について、自らの知識や体験と比較・関連付けながら考えたことを、交流によって広げたり深めたりさせた。

本検証授業で明らかとなった成果は、生徒作品例に「私と布施さんとは絵の見方が違っていたのです。」とあるように、絵画に対する筆者の見方や考え方について、生徒が多様な視点から捉えるようになった点である。これは、第1時で、自分はどうのような観点で絵画を鑑賞しているのか、という自分のものの見方や考え方を生徒に再認識させる学習活動が生かされたためだと考えられる。また、各自が考えたことを色別のカードにメモさせた上で、話し合いによる交流活動を行ったことも効果的であった。この交流活動により、互いの考えの共通点や相違点が明確になり、多様な視点から絵画に対する筆者の見方や考え方について検討することができたといえる。

一方で、課題も見られた。生徒作品例では「布施さんのように、絵の技法や画家の意図についても考えてみたいと思います。」と書いてあるが、そのように絵を見るためにはどのようなことが必要か、いろいろな絵の見方ができるとなぜ面白いのかという点にまで考えを深めていない。筆者のものの見方や考え方と自分のものの見方や考え方を比較しただけで終わってしまっているのである。このような場合には、筆者の考えと自分の考えとの違いを基に、新たなものの見方や考え方を創造できるように教師が積極的に促す必要がある。そのためには、交流による学習活動の後、生徒一人一人が新たなものの見方や考え方を再構築できるような視点を、生徒に分かりやすく提示する工夫が必要である。

<指導例3：第3学年>

新聞の社説を読んで、本文と自らの知識や体験とを比較・関連付けながら考えることで自分の考えを広げ、深めることの指導例

1 単元名

新聞の社説を読んで意見文を書こう

～「言葉によるコミュニケーション」について自分の意見をもつ～

2 単元の目標

二つの異なる新聞の社説の論理の展開や根拠となる事実等を比較・関連付けて読み、自らの知識や体験を踏まえながら根拠を明確にした自分の考えをもつことができる。

3 評価規準

【国語への関心・意欲・態度】

- ・新聞の社説から読み取れるものの見方や考え方と自らの知識や体験とを比較・関連付けながら、自分の意見をもとうとしている。

【読む能力】

- ・二つの異なる新聞の社説と自らの知識や体験とを比較・関連付けながら読み、「言葉によるコミュニケーション」について自分の意見をもっている。(C 読むこと (1) エ)

【言語についての知識・理解・技能】

- ・語句や用語を辞書や用語辞典などで調べ、社説の理解や自分の意見の形成に役立てている。(〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(1)イ(イ)〕)

4 教材

- ・「論理の展開に着目して読もう 新聞の社説を比較する」(光村図書 第3学年)
- ・「平成20年度『国語に関する世論調査』の結果について」文化庁
- ・ワークシート

5 主な学習活動

(1) 単元の展開(全4時間)

	学習活動	指導上の留意点
第1時	○ 単元の課題を把握し、二つの異なる新聞の社説を読み、共通点、相違点、主張、根拠とする事実の観点から比較して、グループごとに整理する。	○ 二つの異なる新聞の社説には相違点だけではなく、共通点もあることに気付かせる。
第2時	○ 社説から読み取れる筆者の考えと根拠との結びつきや、根拠そのものについて検討し、自らの知識や体験との共通点・相違点を整理して「言葉によるコミュニケーション」についての意見をもつ。	○ 社説から読み取れる筆者の考えに対して多様な視点から考えさせる。 ○ 自らの知識や体験と比較・関連付けながら意見をもたせる。
第3時	○ グループでお互いの意見に対する疑問点等を伝え合いながら交流したことを踏まえて、自分の意見を再構築する。	○ 社説に対して異なる立場から意見をもつ者でグループを構成し、互いの考えや根拠を交流させ、考えを広げたり深めたりさせる。

第4時	○ 社説に対する意見文を書き、学習を振り返る。	○ どちらか一方の社説に対して、根拠を明確にした自分の考えを伝えられるようにする。
-----	-------------------------	---

(2) 指導の展開例

第1時

① 本時の目標

二つの異なる新聞の社説に表れている筆者の考えとその根拠について、比較・関連付けながら、共通点や相違点を整理する。

② 本時の学習

学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
<ul style="list-style-type: none"> ○ 社説を読む際に気を付けるべきことについて考える。 ○ 単元の課題を把握する。 ○ 社説で取り上げられている「平成20年度国語世論調査」の調査項目の一部に答え、クラスの傾向を知る。 ○ 二つの異なる新聞の社説を読む。 ○ 二つの社説に表れている筆者の考えとその根拠について、比較・関連付けながら、共通点や相違点を整理する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習事項や体験を想起させながら、筆者がどのような立場から論を展開しているかを吟味し、その話題について自分の立場から意見をもつことの重要性を押さえる。 ・「平成20年度国語世論調査」の結果を取り上げた社説を読み、意見文を書くという課題を理解させ、学習の見通しをもたせる。 ・生徒が自分の考えをもてるように、社説を読む前に取り組ませ、自分たちの実態を把握させる。 ・同じ話題であっても、取り上げる調査項目や意見に違いがあることに気付かせる。 ・二つの異なる新聞の社説からは相違点だけではなく、共通点として「察し合う」ことについて、否定的立場に立っていることに気付かせる。 ・意味が理解できない語句や言い回しがあった場合は、辞典類を活用して理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 二つの社説に表れている筆者の考えとその根拠について、比較・関連付けながら、共通点や相違点を的確に整理している。 <p style="text-align: right;">[ワークシート]</p>

	<ul style="list-style-type: none"> 各自で整理した内容について、4名程度のグループで交流させ、共通点と相違点とを的確に捉えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 語句や用語を辞書や用語辞典などで調べ、社説の理解に役立てている。 [ワークシート]
--	---	---

第2時

① 本時の目標

社説から読み取れる筆者の考えや根拠に対して、自らの知識や体験を比較・関連付けながら意見をもつ。

② 本時の学習

学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
<ul style="list-style-type: none"> 本時のねらいを確認する。 二つの社説が共通の話題としているものは何かを考える。 「言葉によるコミュニケーション」という話題で、二つの社説のうち、どちらに対する意見文を書くかを決める。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0; text-align: center;"> 考えをもつ </div> <ul style="list-style-type: none"> 選んだ社説の意見とその根拠について納得できるかどうか考える。 社説の意見・根拠と自らの知識・経験とを比較・関連付けながら、根拠を明確にして自分の意見をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> 前時に学習したことを踏まえ、社説に対する自分の意見文を書くことを理解させる。 どちらの社説も「言葉によるコミュニケーション」を話題としていることに気付かせる。 自らの知識や体験から批判的に考えることができる社説を選ばせる。 賛成、反対、一部賛成一部反対の三つの立場から自分の立場を選ばせる。 ワークシートに要点をメモさせる。一人一人の生徒に応じて補助的な発問をしたり、ポイントとなる言葉の意味を辞書類で確認させたりすることによって、考えを引き出す。 	<ul style="list-style-type: none"> 社説から読み取れる筆者の考えや根拠に対して、自らの知識や体験を踏まえて意見をもとうとしている。 [ワークシート] 語句や用語を辞書や用語辞典などで調べ、意見の形成に役立てている。 [ワークシート]

第3時

① 本時の目標

互いの意見に対する疑問点等を伝え合いながら交流したことを踏まえて、多様な視点から自分の意見を広げたり深めたりする。

② 本時の学習

学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
<p>○ 本時のねらいを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>考えを交流する</p> </div> <p>○ 4名から6名までのグループで前時に作成したワークシートを交換し、アドバイスや疑問、批判などを書いた付箋を貼り、その付箋を見ながら質疑応答を行う。</p> <p>○ 付箋や質疑応答を基に、自分の意見を再構築する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のものの見方や考え方を広げたり深めたりするために、前時にメモした自分の考えや根拠を互いに交流することを理解させる。 ・同じ社説を取り上げている者で、賛成・反対等の立場が異なるようにグループを構成する。 ・互いの考えを取り入れたり、批判し合うことで、考えを広げたり深めたりできるよう適切な助言を行う。 ・自分の考えを再構築させるためのメモには赤で記入させ、自分の考えの広がりや深まりを意識させる。 	<p>○ 交流したことを踏まえて、多様な視点から自分の意見を広げたり深めたりしている。</p> <p style="text-align: right;">[ワークシート]</p>

第4時

① 本時の目標

社説に対して意見文を書くことを通し、「言葉によるコミュニケーション」について自分の立場や根拠を明確にした考えをもつ。

② 本時の学習

学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
<p>○ 本時のねらいを確認する。</p> <p>○ 自分が選んだ社説を再度、音読させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時に再構築したメモに基づいて意見文を書き、「言葉によるコミュニケーション」について自分の意見をもつことを理解させる。 ・音読させることで、見落としていた言葉や表現がないか確認させる。 ・意味の分からない語句や用語があれば、必ず辞典類で確認させる。 	

【検証授業の成果と課題】

第3学年では、二つの異なる新聞の社説を比較・関連付けて読むことに加え、自らの知識や体験とも比較・関連付けながら意見文を書かせることで、自分の考えをより広げたり深めたりさせた。

本検証授業で明らかとなった成果は、生徒作品例のように、社説の考え方に対して賛否を示した上で、自らの知識や体験を根拠として挙げながら、自分の考えを述べられるようになったことである。これは、第1時で、同じ調査結果を扱った二つの異なる新聞の社説を比較・関連付けて読ませることで、同じデータでも様々な視点から考えをもつことができると確認させたことにより、生徒が多様な視点からものを見たり考えたりすることの重要性を実感した成果と考えられる。また、構成表の内容を交流させる際に、付箋にメモした内容を見ながら質疑応答をさせたことも効果的であった。発言のみで話し合わせた場合は、論点と異なる発言をしたり、優れた意見であっても発言せずに終わったりすることがあった。しかし、付箋に一度メモをさせたことで、論点に沿ってまとめた意見を発言したり、伝えるべき意見をしっかりと伝えたりすることができていた。このことにより、社説の考え方に対して、多様な視点から賛否を示すことができるようになったと考えられる。

一方で、課題も見られた。生徒作品例では「インターネットによって会話のきっかけができたり、会話の幅が広がったりする」というように、自らの体験などを根拠として、社説の考え方とは異なる視点で論を展開している。しかし、会話のきっかけができることや会話の幅が広がるのが本当にコミュニケーション能力の向上といえるのかについては、吟味されていない。このように、根拠が意見を十分に支えているとはいえないものも見られた。また、既に第2時において、生徒が多様な視点から考えや根拠をもっていた場合には、交流による考えの広がりや深まりに課題が見られた。どちらの場合も、教師が個別に生徒の考えを広げたり深めたりするような問いかけをしていく必要がある。グループによる学習活動における適切な個への支援が重要である。

VI 研究のまとめ

本研究は、「自分の考えをより広げたり深めたりする読み手を育てる指導の工夫」を研究主題とし、仮説に基づき検証を行った。以下、研究の成果と課題をまとめる。

● 研究の成果

本研究では、読み取った情報と自らの知識や体験とを比較・関連付けながら考えさせることで、自分の考えをより広げたり深めたりできると考え、検証授業を行った。検証授業では、読み取った情報と知識や体験とを関連付けるために課題の提示の仕方を工夫した。例えば、第2学年を対象に行った検証授業では、導入として、自分が魅力を感じる美術作品を選ばせ、自らの鑑賞の仕方について振り返らせてから、教材文を読ませた。事前に知識や体験を想起させた上で、読み取った情報と比較・関連付けさせることにより、生徒は自らの知識や体験を根拠として、様々な視点から筆者のものの見方や考え方に対し、自分の考えをもつことができた。その結果、生徒は自分の考えをより広げたり深めたりできたといえる。

また、ねらいに合わせて、交流のさせ方を工夫した。例えば、第1学年や第3学年を対象として行った検証授業では、賛成や反対などの立場を明確に決めさせることにより、それぞれの立場から考える視点をもたせることができた。こうした工夫により、生徒が目的をもって主体的に交流を行うことができ、互いに自分の考えを広げたり深めたりできたといえる。

● 研究の課題

検証授業を終えて、課題として挙げられたのは、以下の2点である。

1 課題設定の工夫

本研究を通して、生徒が主体的に学習に取り組むことができる課題を設定することの重要性を改めて認識した。指導例で示したように、筆者のものの見方や考え方や生徒自らの知識や体験とを結び付けやすい課題を設定することができれば、生徒は自分の考えを広げたり深めたりすることができた。しかし、解決させるだけの価値がある課題を設定し、その課題を解決するにふさわしい活動を設定しないと、生徒は主体的に学習に取り組むことができず、交流活動を行っても自分の考えを広げたり深めたりすることができない。今回の研究を通して、課題設定の条件として以下の3点が明らかとなった。

- (1) 生徒に身に付けさせたい基本的な知識・技能を活用させることができる課題
- (2) 実際の社会生活で行われている言語活動と結び付く課題
- (3) 生徒一人一人が異なった視点から広がりのある考えをもつことができる課題

これらの3点の条件を基にしながら、今後も適切な課題設定について、継続して検討し続ける必要がある。

2 考えを再構築させるための手だての工夫

互いの考えを交流させることにより、生徒は自分だけでは気が付かなかったものの見方や考え方に気が付くことができ、自分の考えを変容させていった。しかし、生徒が書いた作品を吟味すると、最初の自分の考えが、交流によって別の考えに変わっただけというものも見られた。また、筆者の考えとは異なる視点から自分の考えを述べている場合でも、考えとその根拠との論理的なつながりに課題が見られる場合があった。

これらのことから、自分の考えを再構築させる際に、以前の考えと現在の考えについての関連性や自分の考えとその根拠の論理的なつながりなどについて、生徒に吟味させる手だてを工夫していくことが必要である。

平成26年度 教育研究員名簿

中 学 校 ・ 国 語

地 区	学 校 名	職 名	氏 名
中央区	銀 座 中 学 校	教 諭	大 野 文
江東区	亀 戸 中 学 校	教 諭	小 峰 渉
目黒区	東 山 中 学 校	教 諭	橋 本 みずき
杉並区	中 瀬 中 学 校	主 任 教 諭	西 村 絵 真
足立区	谷 中 中 学 校	主 任 教 諭	市 川 信 吾
足立区	栗 島 中 学 校	教 諭	福 島 教 全
八王子市	城 山 中 学 校	教 諭	◎前 田 健 太
立川市	立 川 第 八 中 学 校	主 任 教 諭	山 本 美 智 代
調布市	調 布 中 学 校	主 任 教 諭	小 林 寿 子

◎ 世話人

〔担当〕 東京都教育庁指導部指導企画課
指導主事 鈴木 太郎

平成26年度
教育研究員研究報告書

中学校・国語

東京都教育委員会印刷物登録

〔平成26年度第186号〕
平成27年3月

編集・発行 東京都教育庁指導部指導企画課
所在地 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号
電話番号 (03) 5320-6849
印刷会社 正和商事株式会社